

平成25年度第3回消費生活eモニターアンケート調査

「かながわの暮らしむきについて」

目 次

| | |
|-----------|-------|
| 第1章 調査の概要 | ・・・P2 |
| 1 調査目的 | |
| 2 調査対象 | |
| 3 調査方法 | |
| 4 調査期間 | |
| 5 回答者の属性 | |
| 第2章 調査結果 | ・・・P3 |

【 以下のホームページも是非ご覧下さい。 】

© かながわの消費生活
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100548/>

第1章 調査の概要

1 調査目的

県民の暮らしの実態と家計や物価についての意識を把握し、今後の県の消費者行政の参考とするため、「かながわ暮らしむきについて」アンケート調査を実施しました。なお、この調査は昭和58年度から毎年実施しています。

2 調査方法

ホームページ上でのアンケート調査
前半・後半に分け、片方のみ回答した場合も、有効回答として集計しています。

3 調査期間

平成25年12月9日(月)から12月27日(金)まで

4 調査対象

消費生活eモニター 163名 前半回答者：113名 後半回答者：109名

5 回答者の属性

| | | | |
|----|----|--------|-------------------|
| 前半 | 性別 | 男性 47名 | 女性 66名 |
| | 年齢 | 20歳代 | 7名(男性：1名 女性：6名) |
| | | 30歳代 | 25名(男性：5名 女性：20名) |
| | | 40歳代 | 29名(男性：9名 女性：20名) |
| | | 50歳代 | 16名(男性：7名 女性：9名) |
| | | 60歳代 | 24名(男性：17名 女性：7名) |
| | | 70歳以上 | 12名(男性：8名 女性：4名) |
| 後半 | 性別 | 男性 45名 | 女性 64名 |
| | 年齢 | 20歳代 | 7名(男性：1名 女性：6名) |
| | | 30歳代 | 25名(男性：5名 女性：20名) |
| | | 40歳代 | 28名(男性：9名 女性：19名) |
| | | 50歳代 | 17名(男性：7名 女性：10名) |
| | | 60歳代 | 22名(男性：15名 女性：7名) |
| | | 70歳以上 | 10名(男性：8名 女性：2名) |

第2章 調査結果

- ・複数回答のある設問では、比率の合計が100を超える場合があります。
- ・無回答がある場合、比率の合計が100に満たない場合があります。

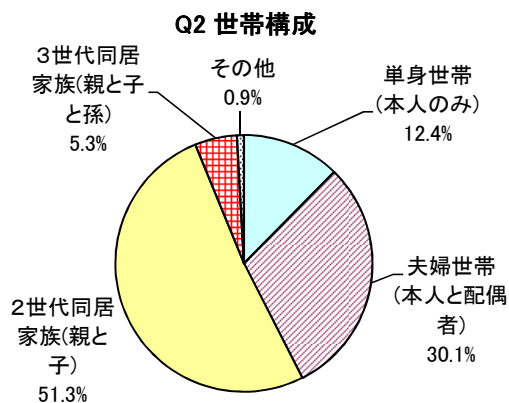
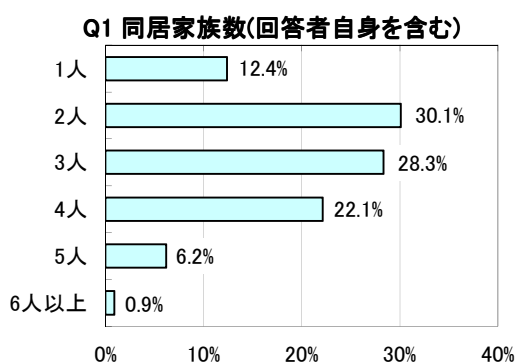
<アンケート前半>:回答者113名

1. 回答者の属性

Q1 同居家族 及び Q2 世帯構成

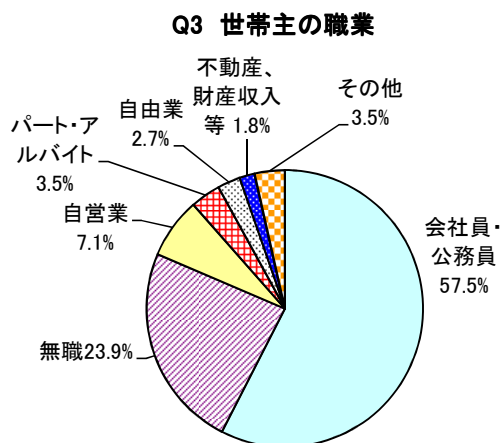
回答者自身を含む同居家族数は、「2人」が3割を超えて最も多く、次いで「3人」が3割弱、「4人」が2割台でした。

また、世帯構成は、「2世代同居家族(親と子)」が5割を超えて最も多く、次いで「夫婦世帯(本人と配偶者)」が約3割、「単身世帯」は1割台、「3世代同居家族」は1割未満でした。



Q3 世帯主の職業

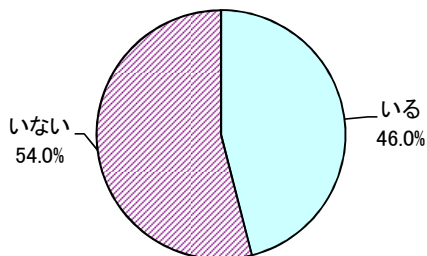
世帯主の職業は、「会社員・公務員」が6割弱で最も多く、次いで「無職」が2割台でした。



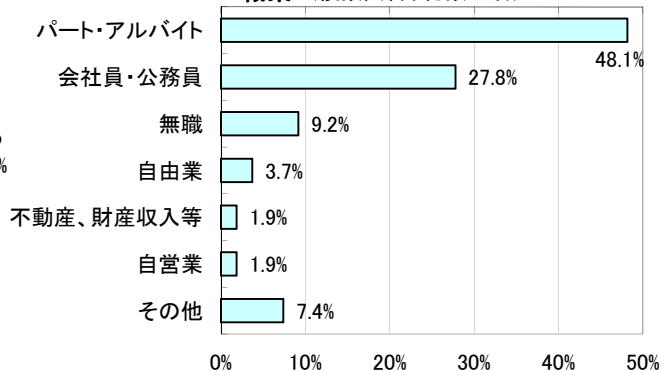
Q4 世帯主以外の就業者の有無 及び Q5 その職業

世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は4割台で、その人の職業は、「パート・アルバイト」が5割弱で最も多く、次いで「会社員・公務員」が3割弱でした。

Q4 世帯主以外に収入を得ている人の有無



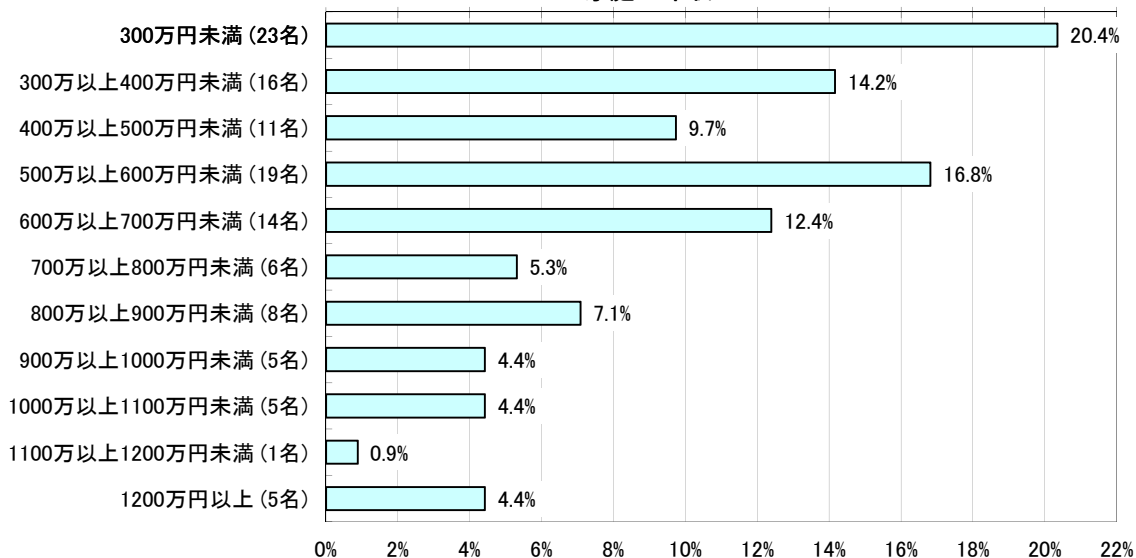
Q5 世帯主以外に収入を得ている人の職業 (複数回答、総数54名)



Q6 家庭の年収

家庭の年収は、「300万未満」が20.4%で最も多く、次いで「500万以上600万未満」が16.8%、3番目は「300万以上400万未満」で14.2%となりました。

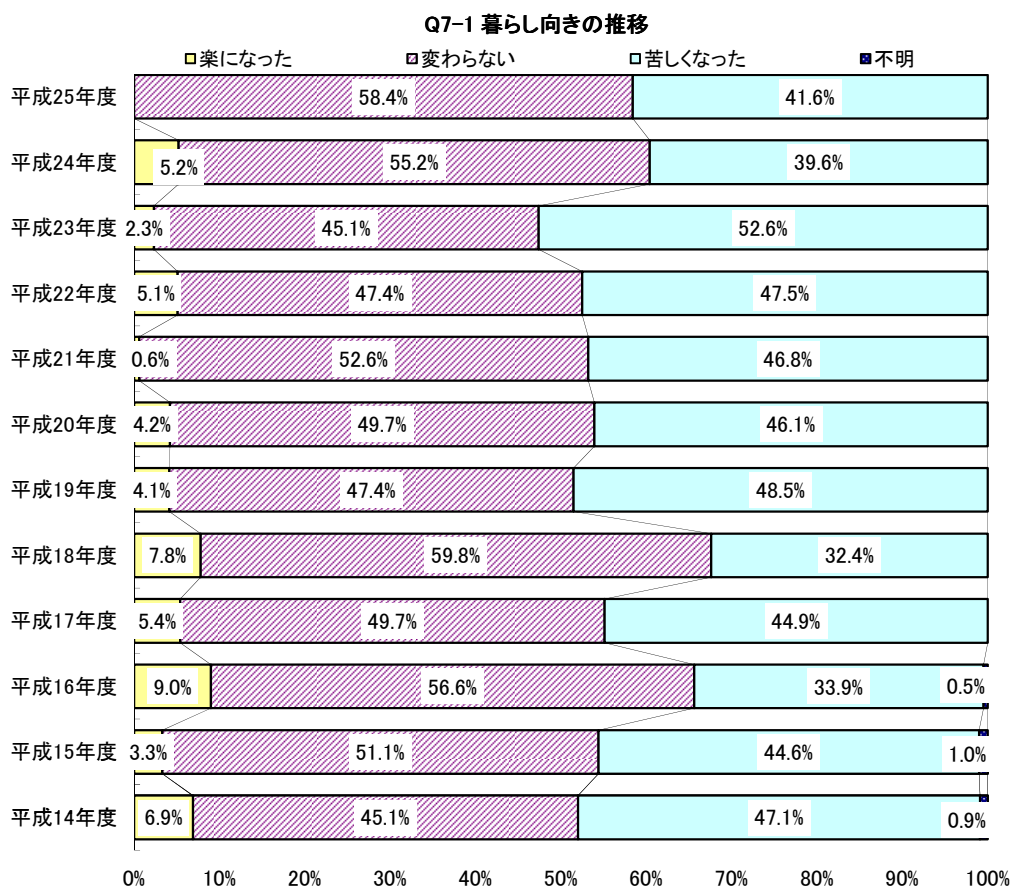
Q6 家庭の年収



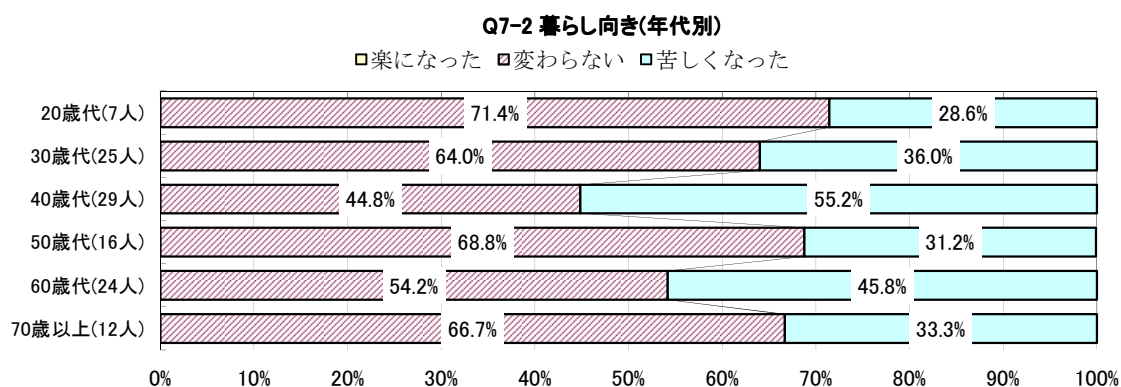
2.暮らしむきと生活意識

Q7 暮らしむきの意識

昨年の同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかについては、「変わらない」が58.4%で、「苦しくなった」が41.6%でした。今回、「楽になった」は回答がありませんでした。

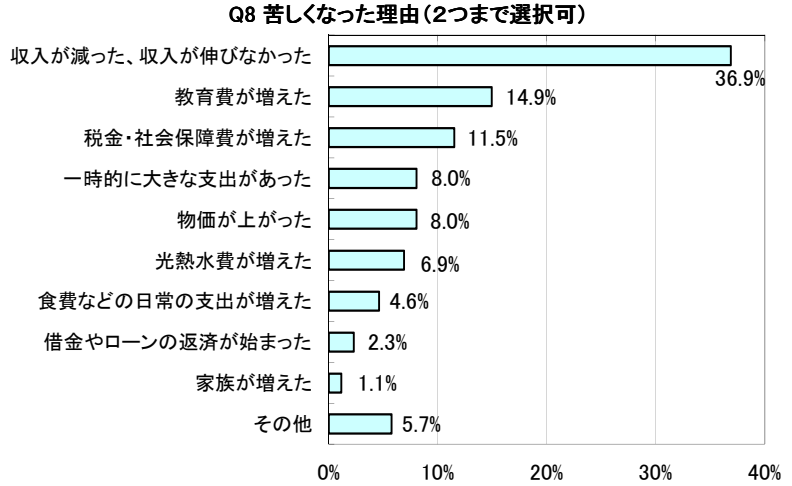


年代別に見ると、40歳代で「苦しくなった」が5割を超えて「変わらない」を上回りました。



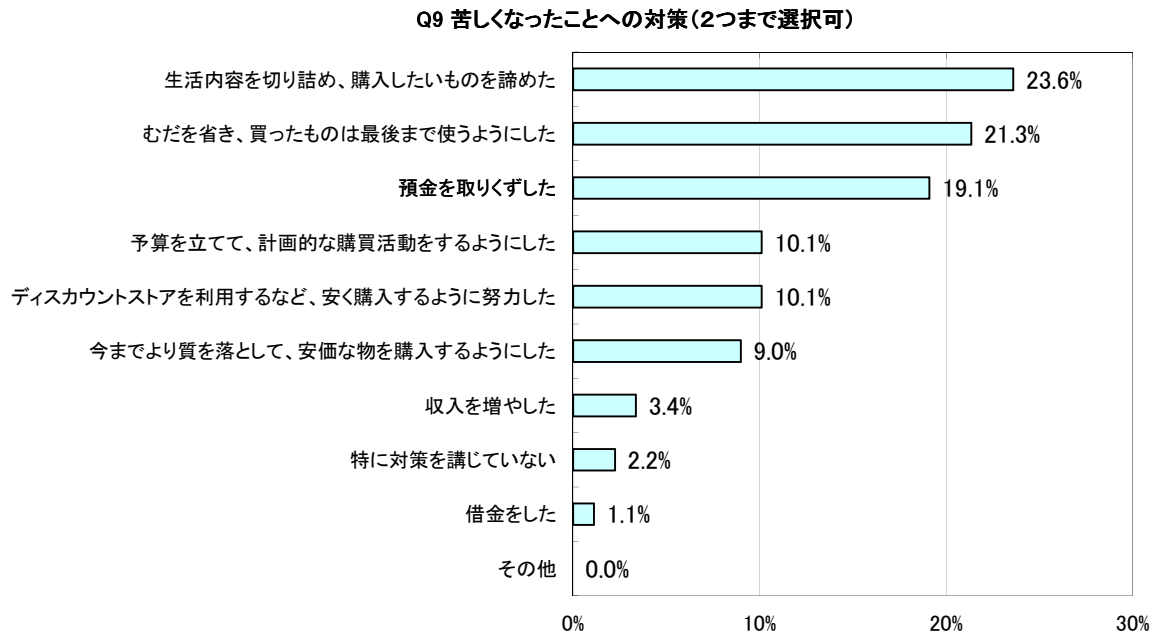
Q8 苦しくなった主な理由

Q7で「苦しくなった」と回答した47名に理由をたずねたところ、「収入が減った、伸びなかった」が最も多く、「教育費が増えた」「税金・社会保障費が増えた」と続きました。



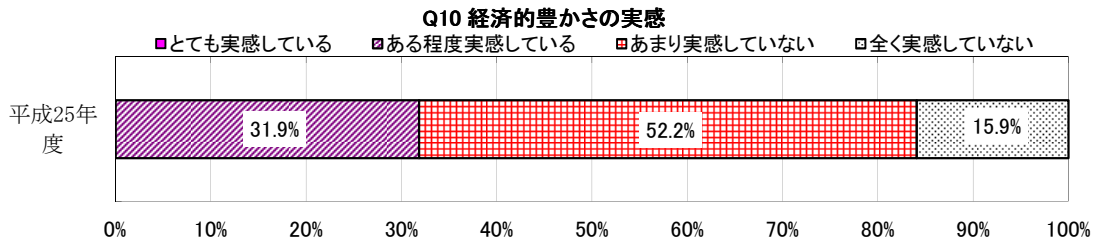
Q9 苦しなくなったことへの対策

Q7で「苦しなくなった」と回答した47名に、講じた対策をたずねたところ、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」が最も多く、「むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした」「預金を取りくずした」と続きました。

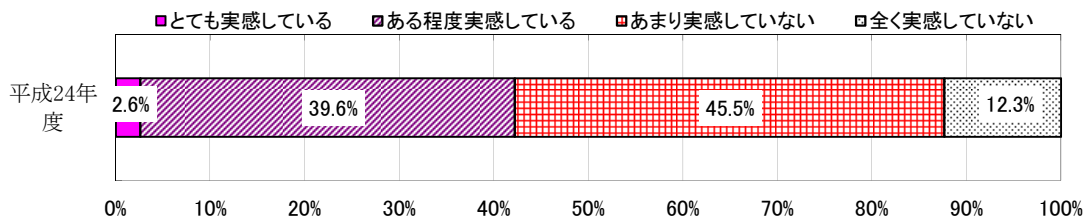


Q10 経済的豊かさの実感

日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかたずねたところ、「あまり実感していない」と「全く実感していない」の合計が7割弱を占めました。また、「とても実感している」との回答はなく、平成24年度と比較すると、経済的豊かさを実感している方の割合は減少しています。

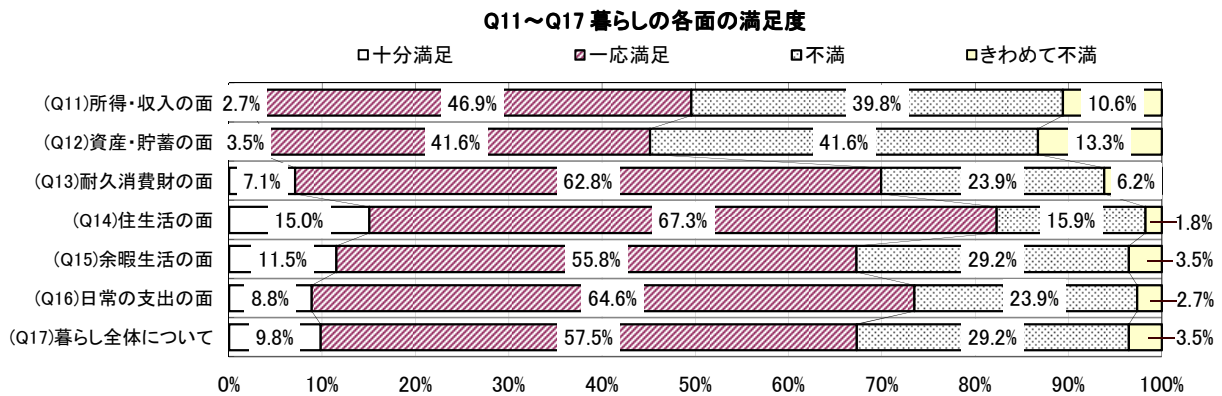


(参考:平成24年度調査)



Q11～Q17 暮らしの各面の満足度

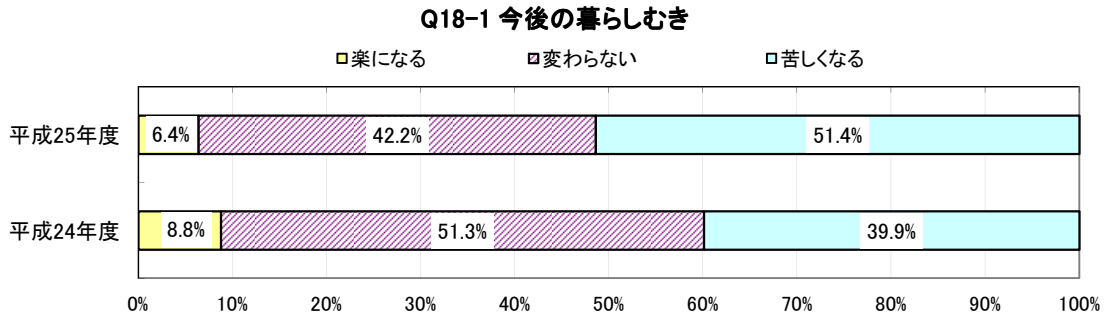
「所得・収入の面」と「資産・貯蓄の面」で、「きわめて不満」と「不満」の合計が5割を超えており、経済面に関する満足度が低くなっています。一方、「暮らし全体について」の満足度は、「十分満足」と「一応満足」の合計が6割を超えました。



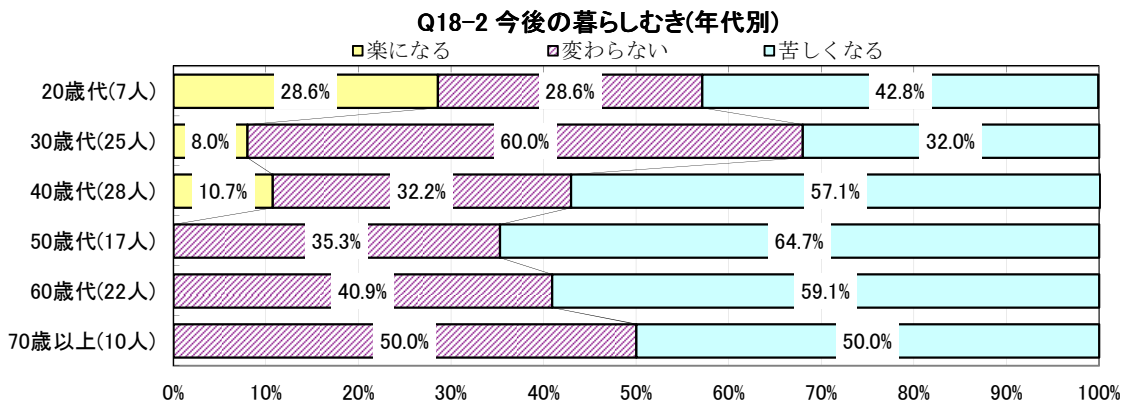
＜アンケート後半＞：回答者109名

Q18 今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、「苦しくなる」が5割を超えており、平成24年度と比較すると、「苦しくなる」が10ポイント以上増加しました。



年代別に見ると、40歳代以上の全ての年代で「苦しくなる」が5割を超えました。



Q19～Q21 「Q18」の回答理由

Q18で回答した理由をそれぞれたずねたところ、以下のとおりでした。(自由記入、要約・抜粋)
「苦しくなる」理由として、「消費税が上がるため」が多く挙げられました。

＜回答＝楽になる＞ 6.4%

- * 子どもの教育費が減るため
- * 現在の仕事の収入が増えるため
- * 就職するため
- * 不動産収入が増えるため

＜回答＝変わらない＞ 42.2%

- * 仕事・収入に変化がないため
- * 家庭の状況（子供の教育費など）に変化がないため
- * 収入以上の生活をしないようにしているため

＜回答＝苦しくなる＞ 51.4%

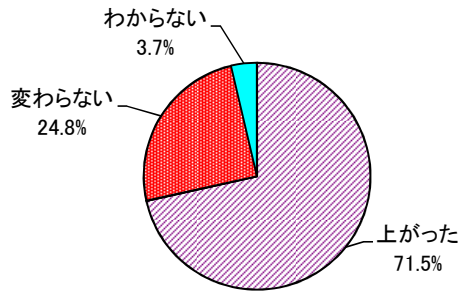
- * 消費税が上がるため
- * 収入が減るため
- * 教育費が増えるため
- * 物価が上がるため
- * 年金が減額になるため
- * 世帯主が退職するため
- * 介護費が増えるため

Q22 物価の上昇感・下落感

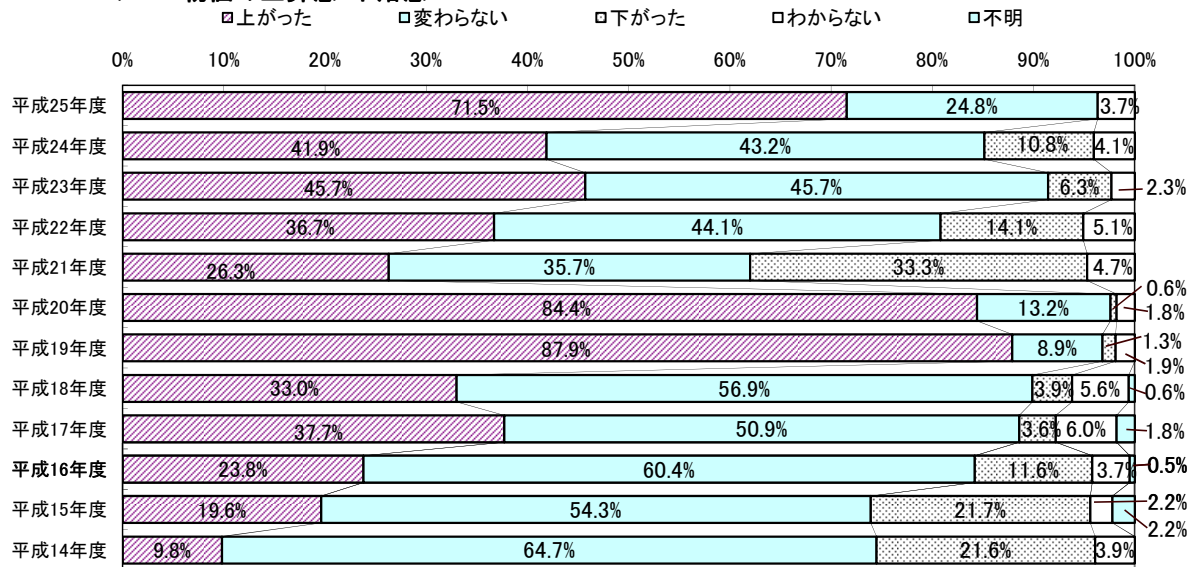
この1年間の物価についてどのように感じているかについては、「上がった」が7割を超える一方、「下がった」は回答がありませんでした。

Q22-1 物価の上昇感・下落感

平成24年度と比較すると「上がった」が大幅に増加しています。過去には、平成19年度、20年度に「上がった」が8割を超えていましたが、これに次ぐ水準となっています。



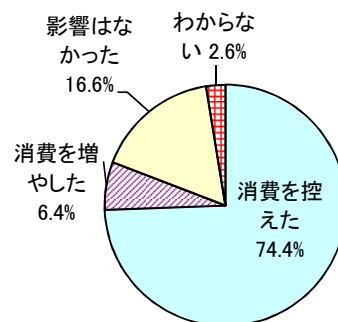
Q22-2 物価の上昇感・下落感



Q23 物価上昇の影響

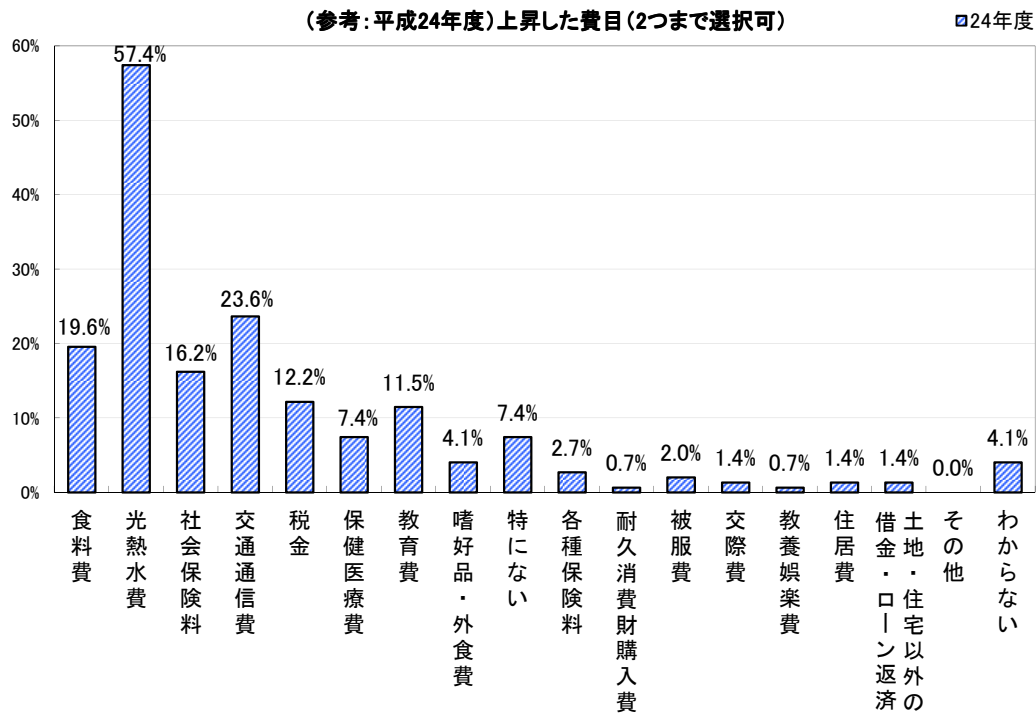
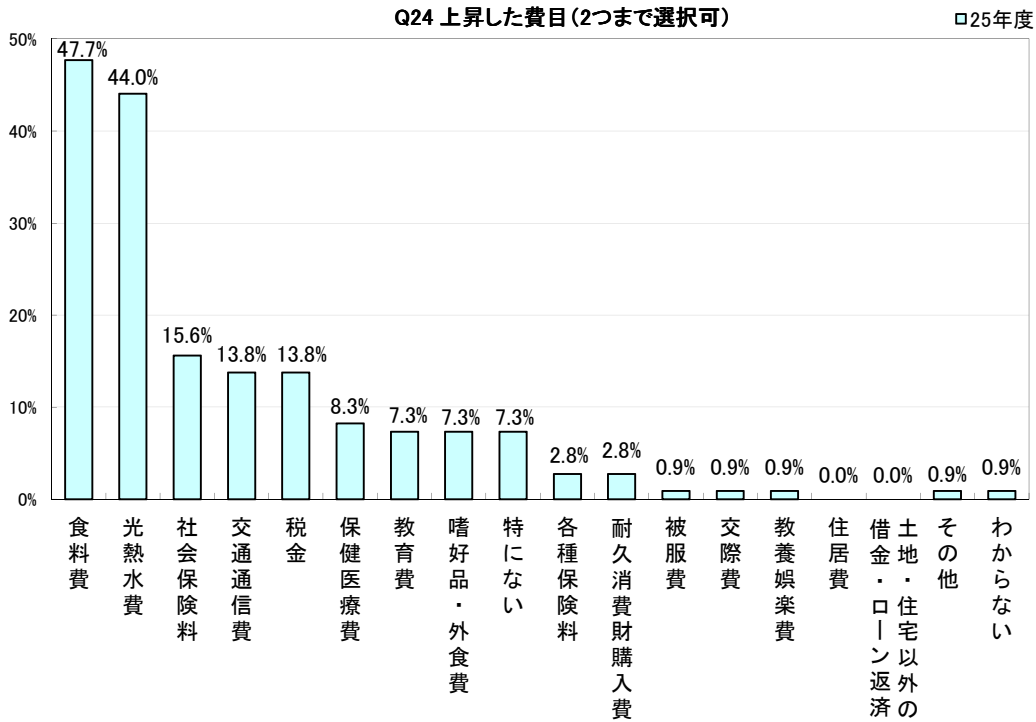
Q22で「上がった」と回答した78名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「消費を控えた」が7割を超えました。

Q24 物価上昇による消費傾向



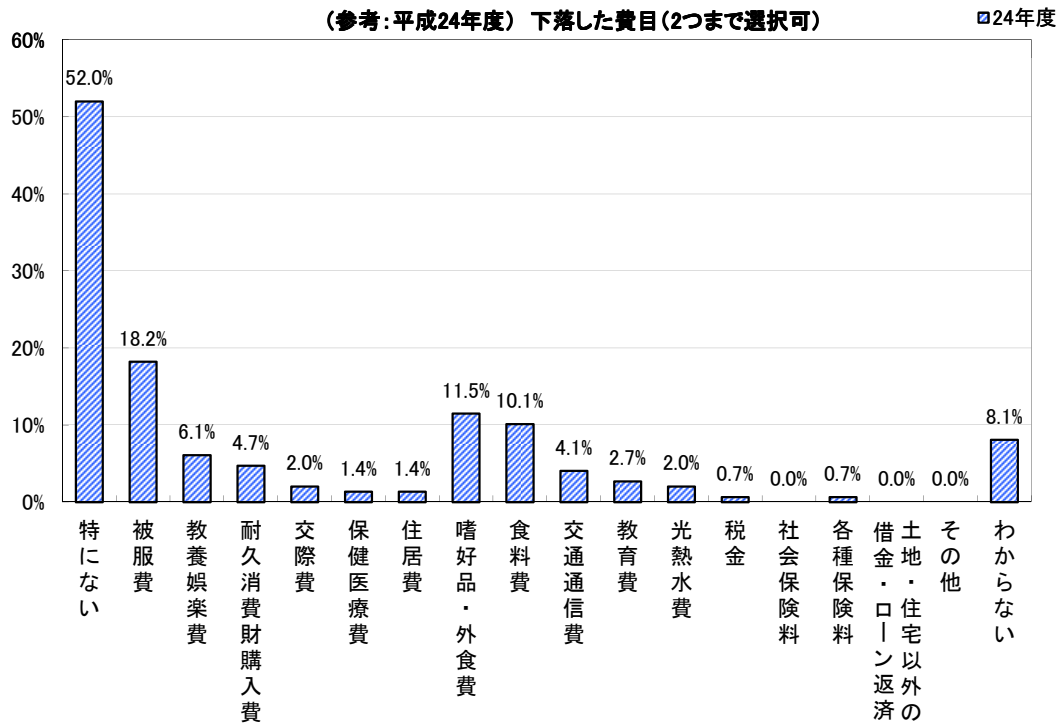
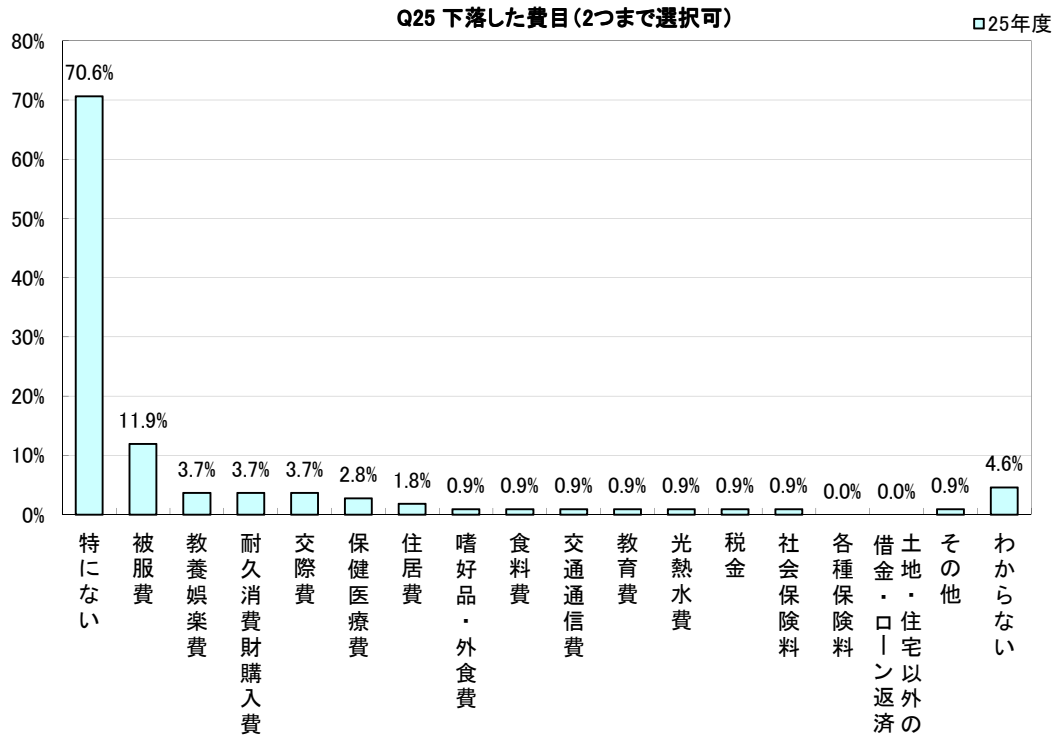
Q24 上昇した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うかたずねたところ、「食料費」が4割台で最も多く、平成24年度の2倍以上となっています。以下「光熱水費」「社会保険料」「交通通信費」「税金」と続きました。



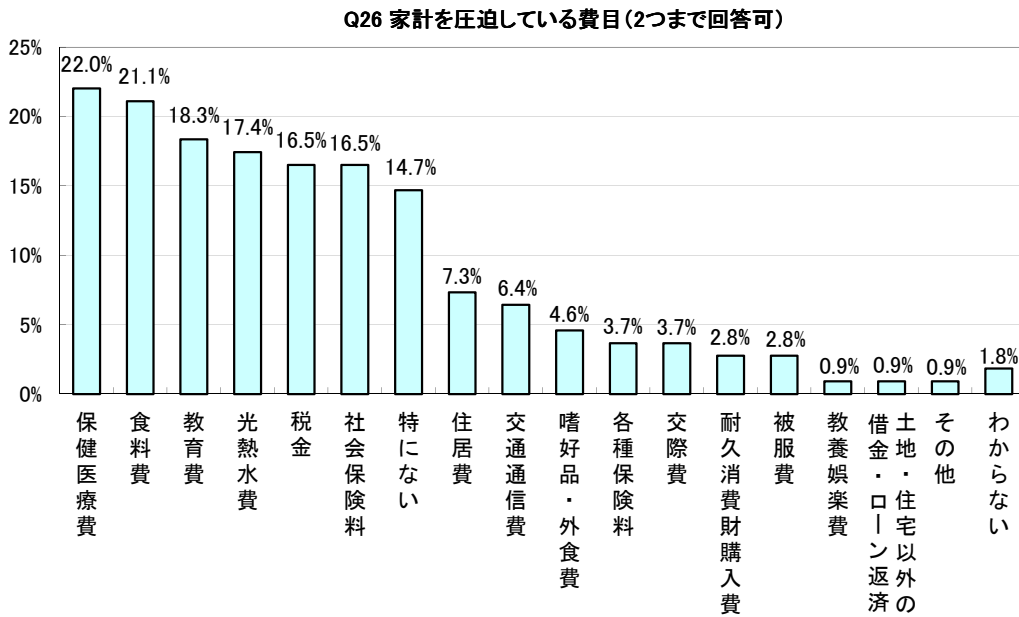
Q25 下落した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うかについては、「特にない」が7割を超えて最も多くなりました。次いで「被服費」が1割台で、その他の費目は全て1割以下でした。



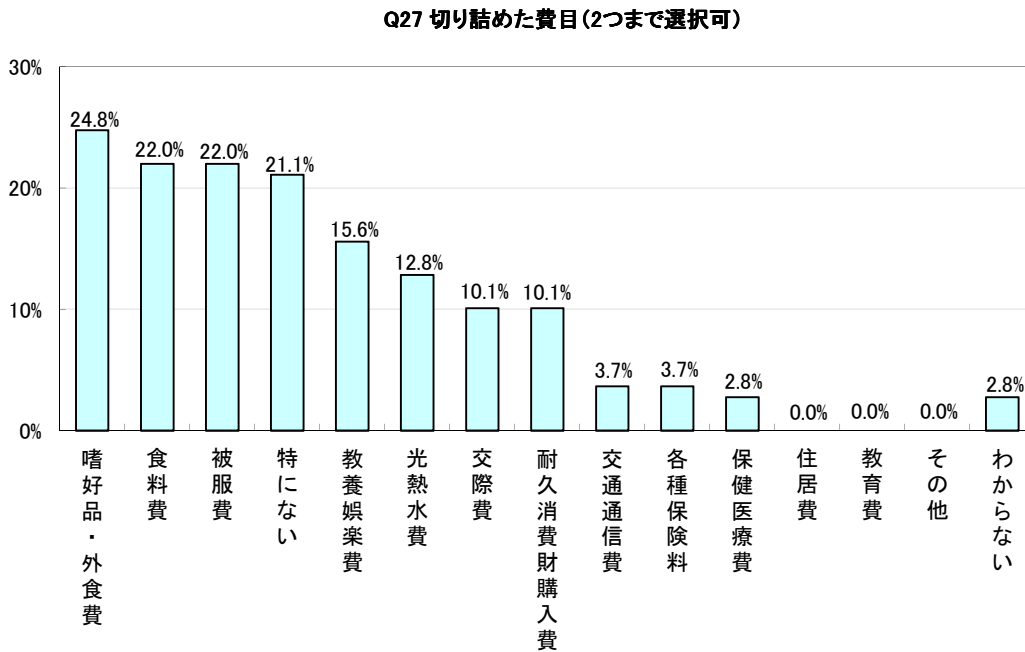
Q26 家計を圧迫している費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目については、「保健医療費」「食料費」「教育費」「光熱水費」と続きました。



Q27 切り詰めた費目

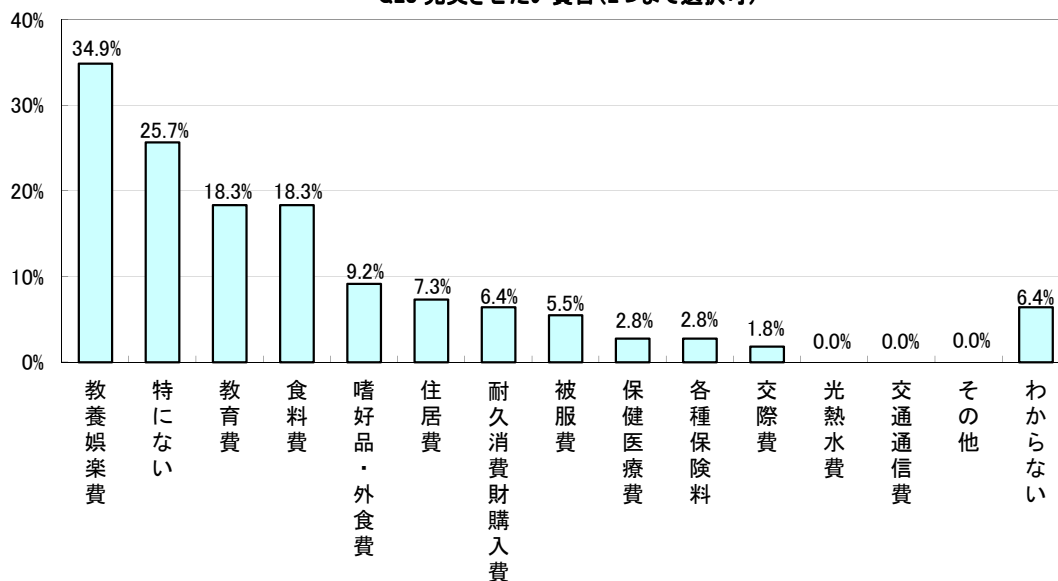
支出面で、特に家計で切り詰めた費目については、「嗜好品・外食費」「食料費」「被服費」と続きました。



Q28 充実させたい費目

今後、支出面で充実していきたいと思う費目については、「教養娯楽費」が3割台で最も多く、以下「特にない」「教育費」「食料費」と続きました。

Q28 充実させたい費目(2つまで選択可)



Q29 充実させたい費目に関する考え(自由記入)

Q28で充実させたいと回答した費目についての考えを聞いたところ、以下のとおりでした。(自由記入、抜粋・要約)

教養娯楽費 34.9%

- * 家族と旅行に行くなどして余暇を充実させたい
- * 趣味に費やす時間や費用をふやすことで、豊かな生活をしたい
- * 定年後の生活を充実させたい

教育費 18.3%

- * 子供に色々な経験をさせてあげたい
- * 子供が進学するので、塾代などにお金がかかる
- * 子供の将来のために、教育費は節約したいとは思わない

食料費 18.3%

- * 食を充実させて、豊かさを感じたい
- * 安全・安心な食品にこだわりたい

嗜好品・外食費 9.2%

- * 生活の満足度を上げたい
- * 外食など少しは贅沢がしたい

住居費 7.3%

- * 住居を修繕したい
- * 住居を建て替えたい
- * 住宅ローンの返済を進めたい

耐久消費財購入費 6.4%

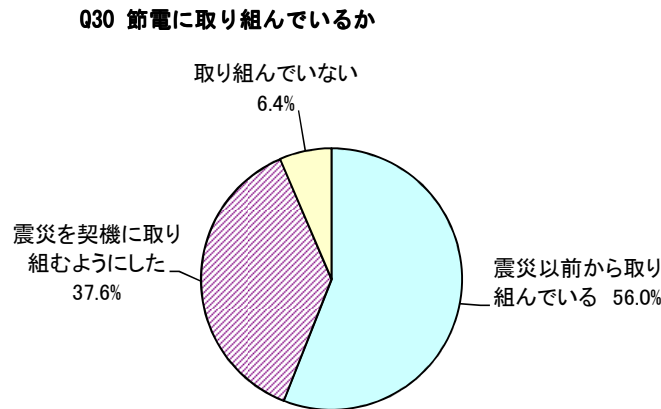
- * 自動車を買替えたい
- * 省エネ対応の家電に買替えたい

被服費 5.5%

- * 現在被服に回す余裕がないので、充実させたい

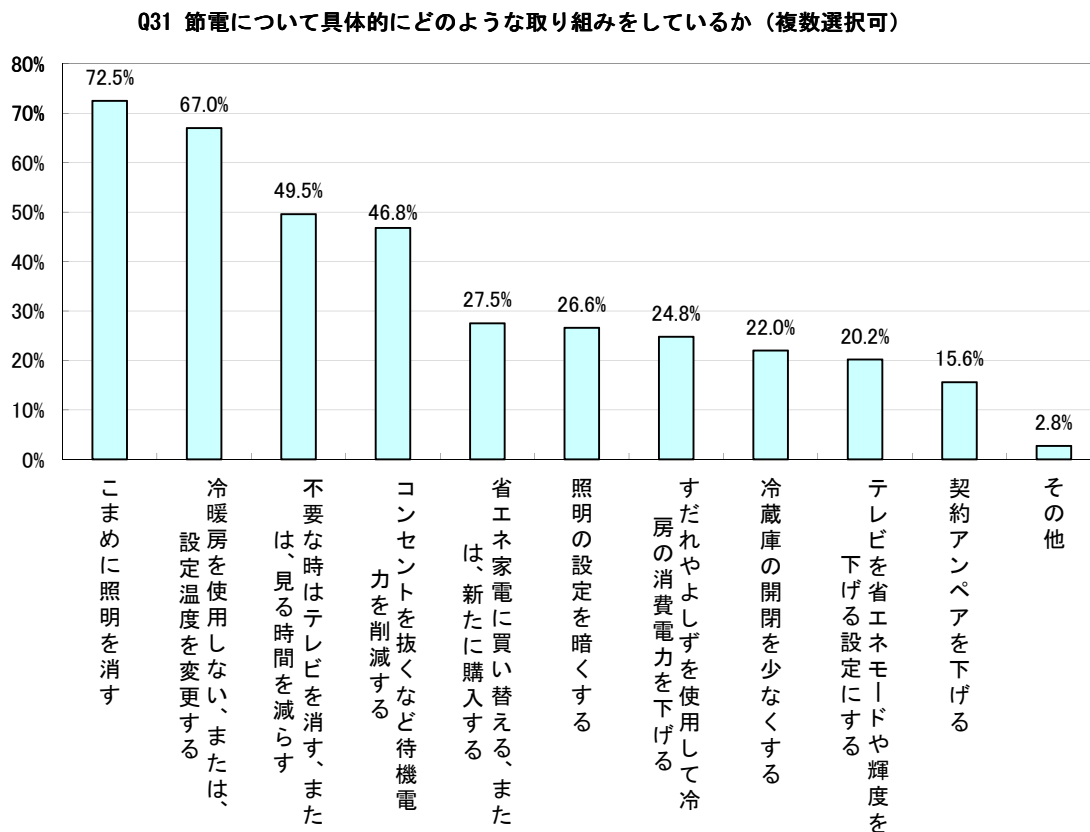
Q30 節電に取り組んでいるか

節電に取り組んでいるかたずねたところ、「震災以前から取り組んでいる」が約6割で最も多く、次いで「震災を契機に取り組むようにした」が3割台でした。これらを合わせると9割以上を占め、ほとんどの人が節電に取り組んでいることが分かります。



Q31 節電について具体的にどのような取り組みをしているか

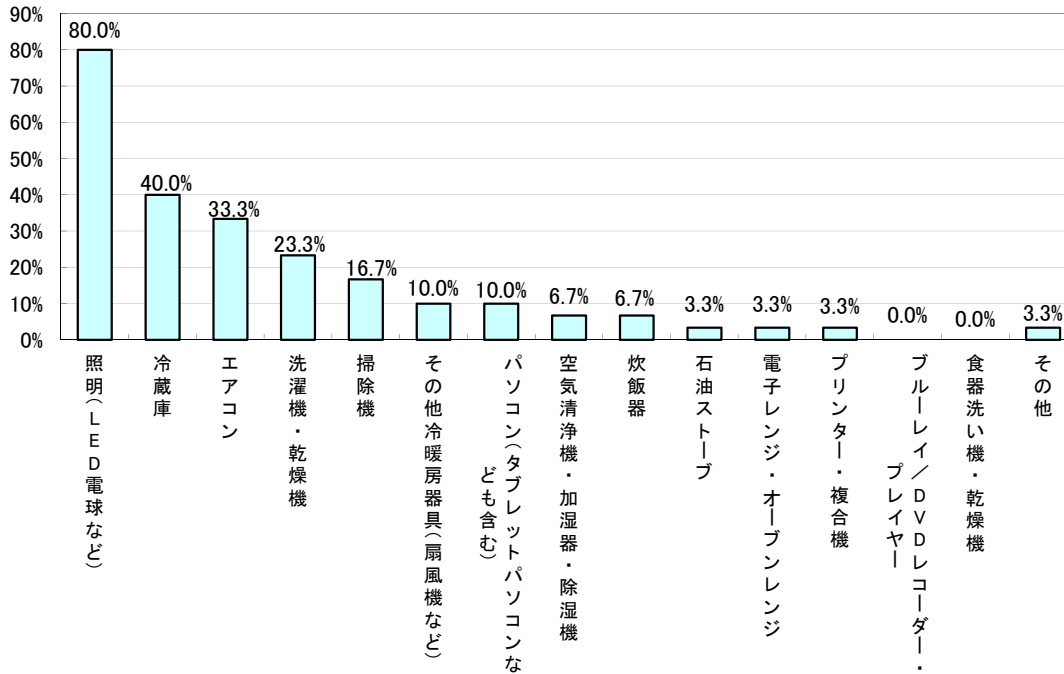
Q30で節電に取り組んでいると回答した102名に節電の取組みについてたずねたところ、「こまめに照明を消す」が7割を超え、最も多い回答でした。以下、「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「コンセントを抜くなど待機電力を削減する」と続き、身の周りで手軽に出来ることから取り組んでいる様子が見られました。



Q32 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか

Q31でこれから「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した30名に、何を買い替え・新たに購入したかたずねたところ、「照明（LED電球など）」が8割を超え、以下「冷蔵庫」「エアコン」と続きました。

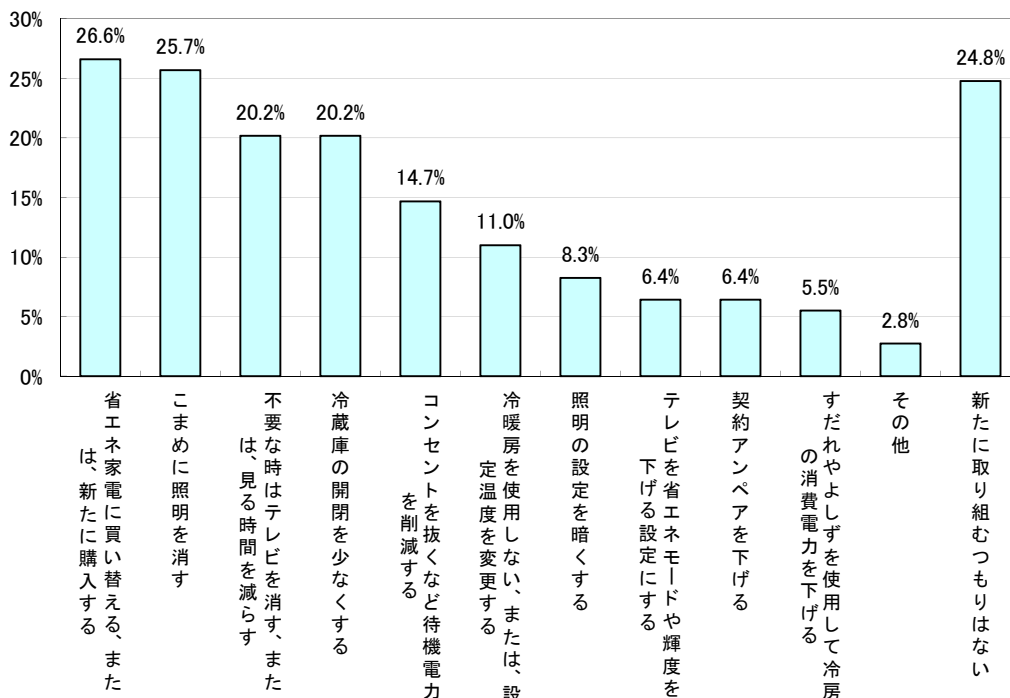
Q32 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか（複数選択可）



Q33 これから新たに取組もうとしている節電方法は何か (複数回答可)

これから新たに取組もうとしている節電方法は、「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」「こまめに照明を消す」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「冷暖房の開閉を少なくする」と続きました。

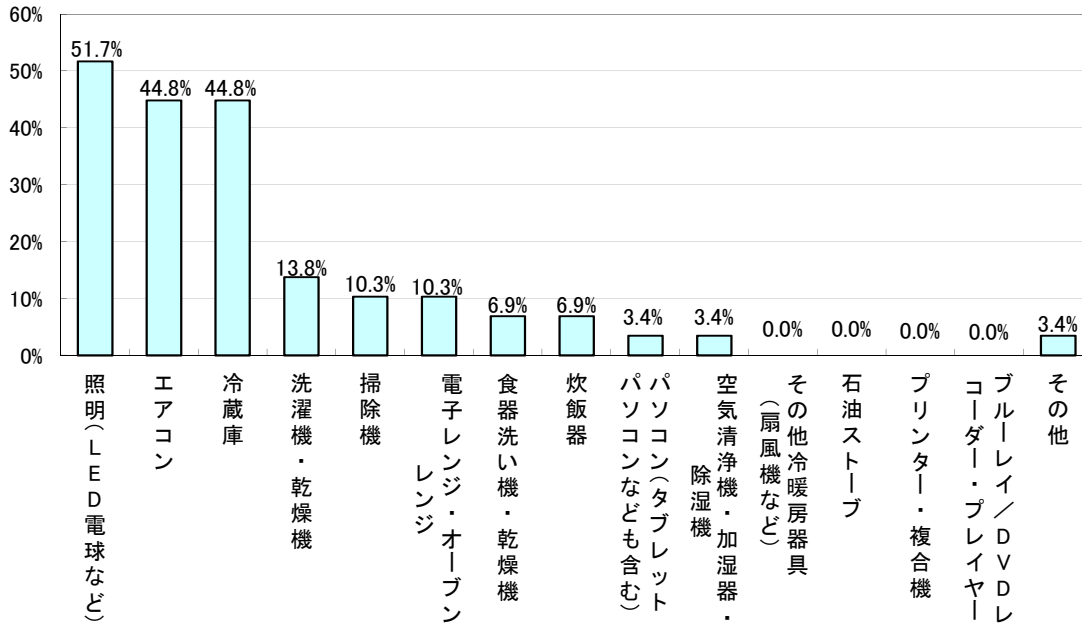
Q33 これから新たに取組もうとしている節電方法は何か (複数選択可)



Q34 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か

Q33でこれから「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した29名に、何を買い替え・新たに購入するかたずねたところ、「照明（LED電球など）」が最も多く、Q32と同様の傾向となりました。

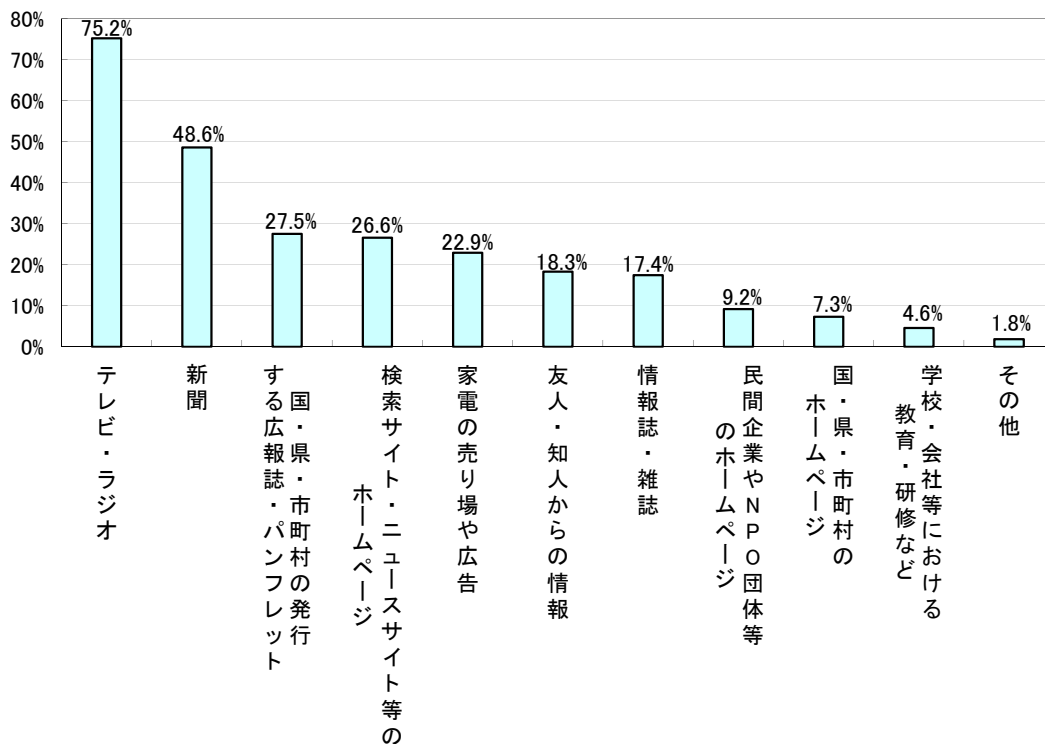
Q34 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か（複数選択可）



Q35 節電に関する情報をどこで手に入れているか

節電に関する情報をどこで手に入れているかたずねたところ、「テレビ・ラジオ」が7割を超えて最も多く、次いで「新聞」が4割台でした。

Q35 節電に関する情報をどこで手に入れているか（複数選択可）



※その他では「セミナー」などが挙げられました。

Q36 「暮らしむき」「物価と家計」「節電」に関して

「暮らしむき」や「物価と家計」「節電」について日頃感じていることをたずねたところ、以下のとおりでした。（自由記入、抜粋・要約）

【くらし全般】

- ・限られた収入でも、知恵を生かして心が豊かな生活を送りたい
- ・景気が回復しているといわれているが、実感できない
- ・これから更に生活が苦しくなると思われる
- ・教育費等でお金がかかる上に、消費税・物価が上昇傾向なので、消費を抑えるしかない
- ・年金生活者に収入の増加はないので、消費税や物価が上がって生活が苦しくなる

【物価・税金】

- ・光熱費の値上がりに戸惑っている
- ・ガソリン代の値上がりで生活が苦しくなっている
- ・食材（特に野菜）が値上がりしているように感じる
- ・便乗値上げについて、もっとしっかり議論・調査してほしい
- ・消費税が上がるので、今後の生活が不安である
- ・消費税増税について、もっとしっかり議論してほしい

【教育】

- ・子どもが幼稚園に通っている間が一番家計が苦しい
- ・子育てにお金かかるので、行政の支援がほしい

【節電】

- ・節電は日常的に心がけなくてはいけない
- ・一部の人だけでなく、一人ひとりが節電に取り組まなければいけない
- ・太陽光発電を推し進めるべき
- ・夏だけでなく一年中節電のキャンペーンをしたほうがよい
- ・節電に関する情報をもっとほしい
- ・街中の電気で必要のないものは消せば、もっと節電できる
- ・節電しているが、電気代も上がっているので実感がない
- ・節電、節約だけを考えると経済が回らず悪循環になるので、節電はほどほどにするべき

【その他】

- ・一般家庭を含め、食料の廃棄を少なくするキャンペーンが必要
- ・色々な情報が錯綜していて、どれが正しい情報なのか分からない